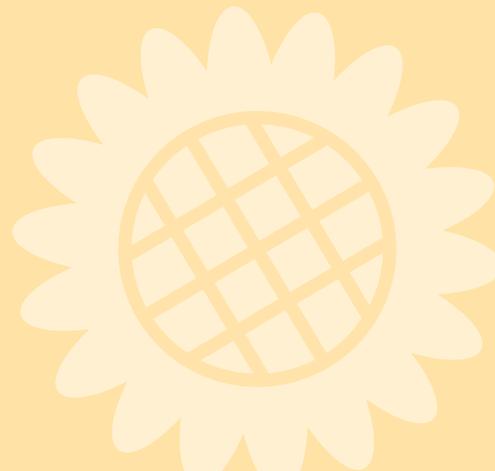


第2章

基本構想

- 1 まちの未来像
 - 2 将来人口
 - 3 土地利用構想
 - 4 市民幸福度
 - 5 総合計画とSDGsの一体的な推進
 - 6 施策大綱
- 

1 | まちの未来像

市民意識調査や各種インタビューの結果をふまえ、とよあけ未来カイギ参加者の皆さまからまちの未来像に相応しいと思うキーワードを考えていただき、そのキーワードをつなげて、本市が目指すまちの未来像を、以下のとおり定めます。

未来へつなぐ みんなでつくる しあわせのまち とよあけ

未来へつなぐ

一人ひとりの取り組みによって「今」の豊明市を**より良いまちへ発展**させながら、**自然**や**歴史**などの環境だけでなく、人や地域の**想**いもそれぞれの世代が次世代に**受け継ぎ**、**持続可能な「未来」**を築きます。

みんなでつくる

「作る」「創る」「造る」など、人によってつくるものに違いはあれど、年齢や性別、障がいの有無、異なる文化及び国籍などを問わず**多様な価値観**を**尊重**し合いながら、**人と人がつながり**、**支えあい**、まちづくりに関わることで、**活気あふれる**地域づくりを目指します。

しあわせのまち

物質的な**豊かさ**だけではなく、**精神的な満足感**、**安心感**、**人間関係の充実**など、誰にでも**居場所**があり、地域全体が**心地よく暮らす**ことができ、**笑顔**があふれ、それぞれの**「しあわせ」**を実感できるまちを目指します。



2 | 将来人口

全国的に人口減少が進む中、国立社会保障・人口問題研究所によれば本市も2040年には63,000人程度まで減少すると推計されています。これに対し、市外流出人口の抑制と市内に住み続けることができる受け皿を確保することを目的とした土地区画整理事業を実施しており、道路、公園などの都市基盤と居住環境の整備を図るとともに宅地の利用増進を目指しています。さらに、本計画に基づき子育てしやすく、住みやすいまちづくりを積極的に推進します。そのため、2031年時点で**68,000人以上**を目標とします。

3 | 土地利用構想

本市は名古屋市に隣接し、伊勢湾岸自動車道、名鉄名古屋本線などの広域交通幹線の要衝となる優れた立地環境にあります。また、桶狭間古戦場などの歴史的な史跡や、勅使池や二村山など水と緑の良好な自然環境にも恵まれています。

人口規模が縮小する時代において、「持続可能な都市」であり続けるため、良好な立地環境を活かして計画的かつ有効な土地利用を図ります。将来の土地利用を「居住ゾーン」「田園居住ゾーン」「産業ゾーン」「農地・緑地ゾーン」、「防災・医療ゾーン」の5つに区分し、発展的かつ自然と共存し、防災機能が高く、安全で快適な都市をめざします。

4 | 市民幸福度

本計画の最終的な成果は、基本計画によって実施されるさまざまな取り組みによって生み出されますが、市民の幸せを政策の成果として市民が実感できるよう、最上位の指標として「市民幸福度」を設定します。本市に暮らす市民の幸福度を、10点満点の主観的評価の平均として、2031年度の市民幸福度**6.77点以上**を目標として定め、ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）の向上を目指します。

●年代別の幸福度の回答比率と平均幸福度 ※ は各年代で最も回答比率が高い得点

年代	幸福度										合計 (%)	平均幸福度	
	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点			10点
20代以下	0.6	0.3	0.8	1.7	4.8	19.9	12.6	25.2	16.8	6.7	9.5	100.0	6.75
30代	0.4	0.0	0.0	4.1	7.4	18.0	9.0	20.1	20.9	6.6	13.5	100.0	6.88
40代	0.0	1.2	2.4	2.8	3.6	21.8	9.1	22.2	19.8	5.6	10.3	100.0	6.68
50代	0.0	1.7	0.7	3.3	4.7	25.0	8.7	19.0	21.3	6.0	8.0	100.0	6.57
60代	0.0	0.4	1.8	0.7	4.0	23.4	12.5	17.2	22.7	6.2	9.2	100.0	6.76
70代以上	0.0	0.4	0.7	1.9	3.3	20.1	12.6	14.5	23.4	10.4	10.4	100.0	6.99
全体	0.2	0.6	1.1	2.4	4.6	21.5	10.8	19.9	20.6	6.9	10.1	100.0	6.77

出典:現状値調査(2025年5月)

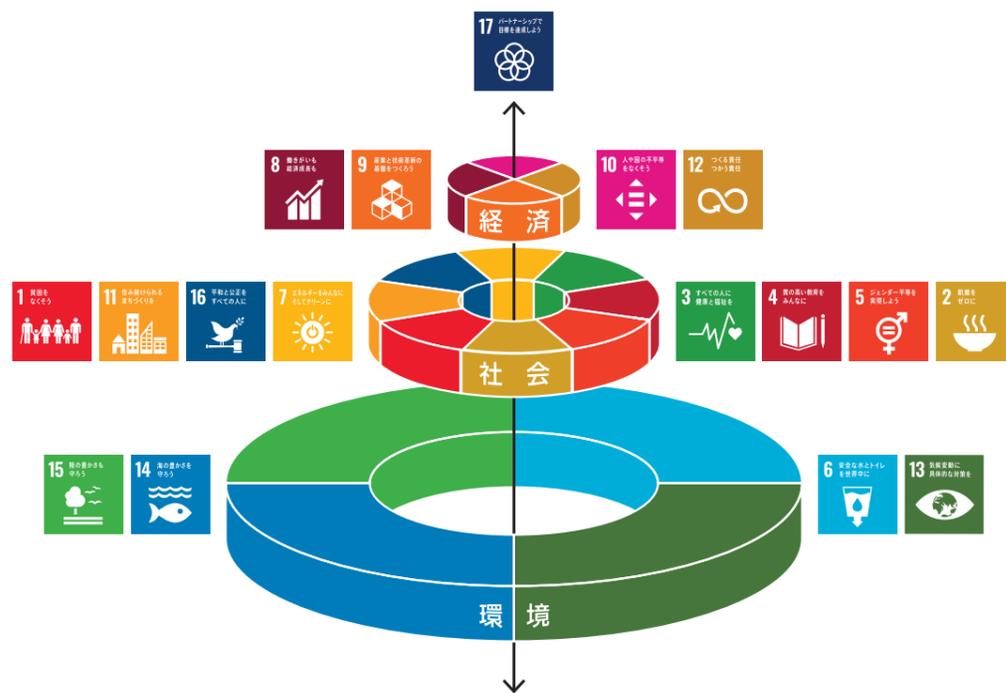
5 | 総合計画とSDGsの一体的な推進

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。

SDGsは、「経済・社会・環境」という3つの側面から成り立っています。この三側面は、ウェディングケーキモデルと呼ばれ、三層構造の関係性となっています。「環境」がすべての活動の根底にあり、その基盤に社会経済活動が依存していることから、3つの側面の課題をバランスよく一体的に解決していくことが求められています。

さらに、共通の開発目標として、17のゴール・169のターゲットを定め、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

SDGsの17のゴールは、「貧困をなくそう」から「パートナーシップで目標を達成しよう」まであり、総合計画の目標であるめざすまちの姿とSDGsにおける推進の考え方は、ともに地域課題の解決に資することにつながり、大きく関係しています。そのため、めざすまちの姿実現に向けた各取り組みを整理し、一体的に推進することで持続的な発展につなげます。



SDGsウェディングケーキモデル

出典:Stockholm Resilience Centre

6 | 施策大綱

1. 分野(重点戦略)

まちづくりの視点・課題整理(総論5参照)を踏まえ、まちの未来像「未来へつなぐ みんなでつくる しあわせのまち とよあけ」を実現するため、4つの分野からまちづくりを推進します。4つの分野については、「第3期豊明市総合戦略」における重点戦略として位置づけ、総合計画と一体的に推進します。また、4つの分野を具体的に進めるための目標を10個設定しました。これを、めざすまちの姿として位置づけます。

分野1 育み・学び

子どもが安全で健やかに成長するために、子どもの視点に立った取り組みを進めるとともに、子育て世代が安心して子どもを産み育てることができるよう、切れ目のない支援体制を整えます。

また、すべての子どもがそれぞれの個性に応じて質の高い学びを受けられる教育環境を整えるとともに、子どもが地域の中で心地よく過ごせる居場所づくりに取り組みます。

めざすまちの姿 1 **子どもが心豊かに育ち、子育て世代が住み続けられるまち**
 子育て・子育て

めざすまちの姿 2 **多様性を尊重した学びの場が広がり、子どもたちが一人残らず心満たされるまち**
 学び・体験

分野2 支えあい

誰もが安心して医療を受けられるように、デジタル技術を使いながら環境を整えるとともに、介護サービスを必要な時期に、幅広い選択肢から満足して受けることができるような環境を整えます。

また、誰もが自分らしく安心して暮らし続けられるように、人と人がつながり支えあう地域づくりを進めるとともに、支援が必要な人に適切な情報と支援を届けます。

さらに、誰もが心身ともに健康で充実した生活を送れるような取り組みを充実させるとともに、文化やスポーツ活動などを通じて生きがいを持ち、多世代が活躍できる機会をつくります。

めざすまちの姿 3 **医療や介護の環境が整っており、誰もが安心して暮らせるまち**
 医療・介護

めざすまちの姿 4 **人と人が寄り添い、つながりながら支えあうまち**
 寄り添い

めざすまちの姿 5 **誰もが健康で楽しく活動できるまち**
 生きがい・はつらつ

分野3 住みやすさ

国籍や立場を超えて多様な主体があらゆる場面でお互いを尊重し、地域で積極的に活動できるような風土や環境をつくとともに、防災・防犯意識を高めるための取り組みを進めます。

環境保全や気候変動対策など、地球規模の課題に取り組むとともに、ごみの適切処理や減量化を通じて生活環境の向上を図ります。また、誰もが気軽に外出し快適に移動できるように公共交通を充実させます。

公園緑地や道路など都市基盤を計画的に整備するとともに、人口密度に応じた住宅政策や空き家対策を進めます。また、河川やため池の管理を強化し、災害に強く安全なまちづくりを進めます。

- めざすまちの姿 **6** **お互いを尊重し、それぞれの個性や強みを活かしてつながりあえる安全安心なまち**
安全安心・地域づくり
- めざすまちの姿 **7** **気軽に外出でき、生活しやすいきれいなまち**
住環境
- めざすまちの姿 **8** **いつまでも住み続けられる、安全で快適なまち**
都市基盤

分野4 賑わい

地域の歴史や文化財を保存・継承するとともに、地域資源を活用し、地域の魅力を磨き上げ、積極的に伝えていきます。

また、多くの人が市内で働きたいと思えるような職場環境づくりを支援するとともに、市内商工業が発展するための取り組みを進めます。

農業においては、地産地消を推進するとともに、農業者が安心して農産物を生産できる環境を整え、産業全体の活力が高まるように努めます。

- めざすまちの姿 **9** **歴史や文化が受け継がれ、地元愛あふれ訪れたいまち**
まちへの誇り
- めざすまちの姿 **10** **自分らしく働く場所があり、産業が盛んな活気あるまち**
産業

2. 市民や団体など、多様な主体との協働・共創

めざすまちの姿実現に向けて、行政だけではなく多様な主体がそれぞれの分野で役割を担う必要があります。ともに手を取り、相互に補完し、協力しながらまちづくりを進めるものとしします。

3. まちづくりを支える行財政運営

基本構想の推進にあたっては、以下の6つの視点(行政推進項目)から、まちの未来像「未来へつなぐ みんなでつくる しあわせのまち とよあけ」の実現に向けて、全庁的に取り組めます。6つの視点については、基本的方向性を「第7次豊明市行政改革大綱」として位置づけ、総合計画と行政改革の連動性を高め、一体的な運用を行うことで必要な改革を推進するものとしします。

- 行政推進項目 **1** **市民サービスを向上する**
- 行政推進項目 **2** **情報収集と発信を積極的に行う**
- 行政推進項目 **3** **効果的・効率的な行政運営を行う**
- 行政推進項目 **4** **健全な財政運営を行う**
- 行政推進項目 **5** **働きやすい環境づくりと人材育成を推進する**
- 行政推進項目 **6** **公正な行政運営を保つ**

4. 進行管理

計画期間中の各施策の進捗状況や課題など、定期的に市民と行政の双方で確認し、評価・検証するなど、市民参画型の進行管理を行います。特に、未来を担う子どもたちの意見を積極的に取り入れ、事業の改善につなげます。

	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年
第6次豊明市総合計画 第3期豊明市総合戦略 第7次豊明市行政改革大綱	→ 一体的に推進 →					
行政評価	○	○	○	○	○	○